

スポーツ庁委託事業

平成29年度 地域における障害者スポーツ普及促進事業

事業実績報告書

□■ 目次 ■□

I 事業実施にあたっての「基本的な考え方」	1
(1) 事業実施の趣旨	1
(2) 事業の実施体制	1
(3) 実施体制図	2
II 平成29年度事業実施日程	3
III 普及促進実行委員会	5
(1) 会議の目的	5
(2) 検討事項	5
(3) 実行委員会委員	5
(4) 実行委員会の開催	5
IV 実践研究	11
(1) 関係者が連携した取組のモデルづくり	11
(2) 学校を拠点とした取組のモデルづくり（運動部活動を通じた活性化モデル）	12
(3) 学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）	16
V 成果と課題	23

【参考】

高知県地域における障害者スポーツ普及促進事業障害者スポーツ普及促進実行委員会設置要綱

I 事業実施にあたっての「基本的な考え方」

(1) 事業実施の趣旨

本県の障害者のスポーツ活動は、県立障害者スポーツセンターが中心的な役割を担っており、同センターが行うスポーツ教室や巡回活動のほか、市町村社会福祉協議会が行うレクリエーション活動、特別支援学校における体育授業や運動部活動が挙げられるが、それぞれの実施主体が単独で行っていることが多く、多様な活動につながりにくい。

また、同センターは県中央部に位置しており、県東部や西部におけるスポーツ活動の支援に限界があるとともに、社会福祉協議会の活動や学校における運動・スポーツ活動は、対象者が限定的であるといった課題がみられる。

これらの課題を踏まえ、本事業においては、「関係者が連携した取組のモデル」と「学校を拠点とした取組のモデル」づくりに向けた実践研究を行い、その成果を広く県内に普及することで、障害者スポーツの普及・発展につなげることを目的とする。

<事業終了後>

本事業で得た成果をさらに普及・啓発するとともに、必要に応じて、県の事業や関係機関・団体の事業として、取組の継続と広がり努める。

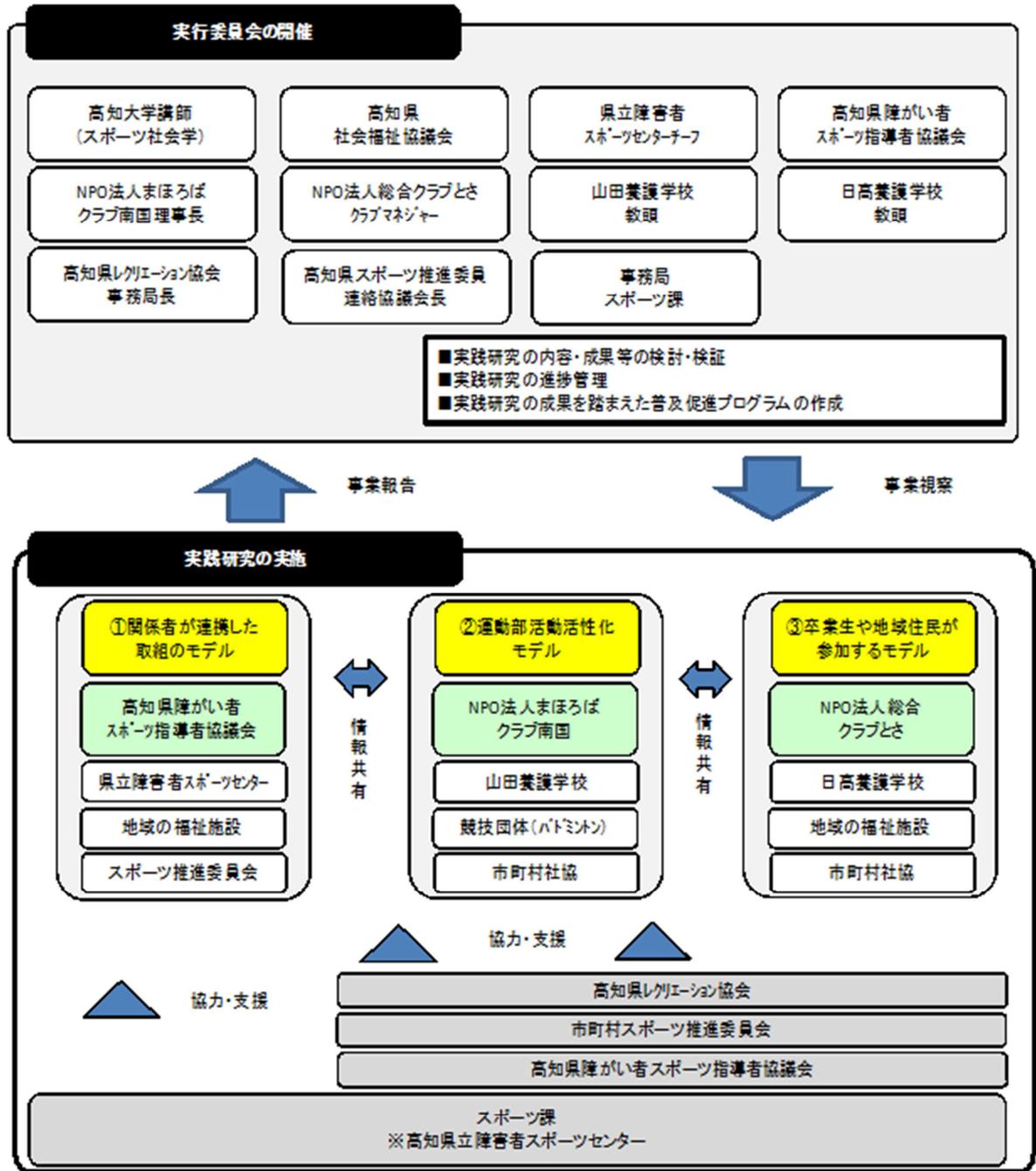
(2) 事業の実施体制

■高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

統括責任者 1 名：実行委員会の調整・運営、実践研究担当者への指導 等

実践研究担当者 2 名：各実践研究のサポート

(3) 実施体制図



II 平成29年度事業実施日程

実施月日	実施内容
平成29年7月16日	【事務局】高知県スポーツ推進委員初任者研修会において事業報告
平成29年7月18日	【とさ】第1回関係者検討会議
平成29年7月27日	【障ス指協】第1回関係者検討会議
平成29年7月30日	【とさ】夏休み・休日を活用したスポーツ体験教室（PTA行事）
平成29年7月31日	【とさ】夏休み・休日を活用したスポーツ体験教室（中学部登校日）
平成29年8月2日	【とさ】夏休み・休日を活用したスポーツ体験教室（小学部登校日）
平成29年8月4日	【事務局】第1回普及促進実行委員会
平成29年8月20日	【とさ】同窓会を活用したスポーツ体験教室
平成29年8月24日	【障ス指協】第2回関係者検討会議
平成29年8月28日	【まほろば】第1回関係者検討会議
平成29年9月7日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）①
平成29年9月14日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）②
平成29年9月21日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）③
平成29年9月23日	【障ス指協】障害者陸上競技教室（黒潮町会場）①
平成29年9月24日	【障ス指協】障害者陸上競技教室（宿毛市会場）②
平成29年9月26日	【障ス指協】第3回関係者検討会議
平成29年9月30日	【とさ】休日を活用したスポーツ体験教室（フライングディスク①）
平成29年10月4日	【とさ】休日を活用したスポーツ体験教室（フライングディスク②）
平成29年10月5日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）④
平成29年10月5日	【とさ】休日を活用したスポーツ体験教室（ダンス①）
平成29年10月10日	【まほろば】多種目スポーツ体験イベント①（高等部）
平成29年10月12日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）⑤
平成29年10月12日	【とさ】休日を活用したスポーツ体験教室（ダンス②）
平成29年10月13日	【事務局】第2回普及促進実行委員会
平成29年10月19日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）⑥
平成29年10月25日	【障ス指協】第4回関係者検討会議

平成 29 年 10 月 26 日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）⑦
平成 29 年 10 月 27 日	【とさ】多種目スポーツ体験イベント①（小・中等部）
平成 29 年 11 月 2 日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）⑧
平成 29 年 11 月 6 日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（レクリエーション）①
平成 29 年 11 月 7 日	【事務局】高知県特別支援学校教頭会において事業報告
平成 29 年 11 月 9 日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）⑨
平成 29 年 11 月 14 日	【とさ】第 2 回関係者検討会議
平成 29 年 11 月 20 日	【まほろば】多種目スポーツ体験イベント②（小・中学部）
平成 29 年 11 月 27 日	【事務局】J S N フォーラム 2017in 高知において事業報告
平成 29 年 11 月 29 日	【まほろば】第 2 回関係者検討会議
平成 29 年 11 月 29 日	【とさ】多種目スポーツ体験イベント②（高等部）
平成 29 年 11 月 30 日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（バドミントン）⑩
平成 29 年 12 月 11 日	【まほろば】部活動へ指導者派遣（レクリエーション）②
平成 29 年 12 月 16 日	【まほろば】交流バドミントン大会
平成 29 年 12 月 22 日	【とさ】地域の福祉施設を活用したスポーツ体験教室①
平成 29 年 1 月 16 日	【まほろば】第 3 回関係者検討会議
平成 29 年 2 月 13 日	【とさ】第 3 回関係者検討会議
平成 29 年 2 月 27 日	【とさ】地域の福祉施設を活用したスポーツ体験教室②
平成 29 年 3 月 6 日	【事務局】第 3 回普及促進実行委員会
平成 29 年 3 月 21 日	事業完了

Ⅲ 普及促進実行委員会

(1) 会議の目的

実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、スポーツ関係者や福祉関係者、学識経験者などで構成する実行委員会を開催し、実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及する。

(2) 検討事項

- ①実践研究の進捗管理
- ②実践研究の内容、成果等の検討・検証
- ③実践研究の成果を踏まえた普及促進プログラムの作成

(3) 実行委員会委員（8人）

- 高知大学講師 1人
- 障がい者スポーツ指導者協議会 1人
- 総合型クラブ関係者 2人
- 学校関係者 2人
- 県スポーツ推進委員連絡協議会 1人
- 県レクリエーション協会 1人

(4) 実行委員会の開催

会議名	日付	内容
第1回普及促進実行委員会	8月4日	事業内容について
第2回普及促進実行委員会	10月13日	進捗状況について
第3回普及促進実行委員会	3月6日	実績報告について

第1回普及促進実行委員会より

■実施団体より事業概要説明

○高知県障害者スポーツ指導者協議会の取組について

- ・昨年度、幡多地区障害者陸上競技大会を開催した。本年度は、同大会に向けた陸上競技教室を幡多地区で開催予定で、教室は専門的な指導で競技力向上を目指すことよりも、幡多地域の障害者の方の陸上競技大会への参加に向けた広報の位置づけとしたい。昨年度の反省を活かし、わかりやすく親しみやすいチラシを関係者検討会議の委員（幡多地区在住の高知県障がい者スポーツ指導者協議会の方）が作成するなど工夫したい。

○まほろばクラブ南国の取組について

- ・山田養護学校バドミントン部への専門指導者派遣を行い、その発表の場となる交流バドミントン大会を開催する。コミュニケーションスキルも育めるよう高知県レクリエーション協会の協力のもと、互いに協力できる体験の場を作りたい。事業終了後に学校の部活動に繋がる、総合型地域スポーツクラブに繋がることを前提として各取組を進めたい。

○総合クラブとさの取組について

- ・夏休み中にPTA行事、登校日、同窓会でのスポーツ体験教室を計画。放課後のスポーツ教室のフライングディスク教室は、昨年度参加の高校生が教室後の全国大会で優勝したり、同じく参加の地域の障害者の方が教室後の愛媛国体の予選で好結果を出したこともあり継続する。参加者増や参加者がより多く体験できるように種目の変更や運営の工夫を考えている。

■意見交換

- ・昨年度のバドミントン部への指導者派遣の成果と考えているが、今年度に入り山田養護学校の生徒が保護者同伴のもと、まほろばクラブ南国のある南国市立スポーツセンターで週2回サークルとして活動を始めている。生徒と一緒に同伴のお母さん方も楽しんでいる状況である。ただ、嶺北在住の方は週2回の学校の部活動に加え週2回の学校からまほろばクラブ南国までの移動、さらに日程変更への対応や帰り道の長距離の山道の運転など保護者の負担が大きく心配である。
- ・地域での障害者スポーツの普及には移動手段の確保が大きな課題である。地方では公共交通機関が大変脆弱な状況にあり、公共交通機関での移動は時間・費用・肉体的精神的疲労の面で大きな負担が生じるのが現状である。
- ・トヨタ自動車や大塚製薬などの企業に、地方の障害者スポーツ普及への支援の要望をしている。企業としてもPR効果が求められるので難しいことと思うが、発信し続けたい。
- ・各市町村の社会福祉協議会でバスがあるところとないところがあり、市町村行政の持つバスの利用も制約や条件がそれぞれに違う。それらを調べてまとめることも効果的ではないか。
- ・スタッフの確保も課題である。地域のスポーツに詳しい人材を求めている。キーマンになれる人材、特に幡多地域と安芸地域の情報が欲しい。
- ・高知は人が少ないので指導者の数も都会に比べると少ない。スポーツ推進委員と繋がるためにも市町村行政との連携が必要である。
- ・“可能な人、できる人”を見つけて、いかに活躍していただくか、マッチングし、コーディネートしていくのが大事である。
- ・全体的に今はオリンピック・パラリンピックに視点が向いている。もう少し地方の障害者スポーツ振興にも目を向けてもらいたい。障害者スポーツの競技力向上には大きな金額が動いている。スポットの当たり方が極端になっている。あるところとないところの差が大きくなっている。
- ・障害者アスリートの活躍も大切だが、障害者の生涯スポーツの普及も必要である。

第2回障害者スポーツ普及促進実行委員会より

■事業進捗状況報告と意見交換

○高知県障害者スポーツ指導者協議会の取組について

- ・高知県西部の幡多地域は広いので、車で1時間圏内で参加者が来られることを想定し、大会へ向けての広報の意味も込めた陸上教室を計画。
- ・昨年度大会に参加していなかった方の掘り起こしとして一定の成果はあったと考えているが、参加人数は黒潮町会場が10人、宿毛市会場が10人で目標数には届かず、土佐清水会場と大月会場については申込みがなかった。
- ・大月町については、広報のお願いをキーパーソン個人にしてしまったため情報がうまく広げられなかった。今後は役場を通じてお願いする。土佐清水については障害のある方の情報の取りまとめ、情報の一元化の仕組みがないという根本的な問題もあり参加者へ情報が伝わりにくかった。広報の工夫が必要である。
- ・これまで教室を行い定着化を図るパターンが多かったが、高知竜馬マラソンのように、まず発表の場を設定して、それに向けて教室を設定する方法に切り替えてやってみているところである。今回の講師の先生方には技術指導よりも、アップの仕方や普段の練習の仕方などを中心に指導していただいた。今までとは逆のやり方に挑戦してみているというのがこれまでの経緯。
- ・幡多に障害者スポーツに適した指導者となる人材はいるが、誰がそのコーディネーター役をするのが課題。定期的な活動を行うためには会場確保から雨の日の連絡等、事務局機能を担うところがない。各市町村の非常勤職員であるスポーツ推進委員さんに担っていただけないかという投げかけはさせていただきたい。指導者はいるのでマッチングさせるためのコーディネーター機能やその拠点が必要。

○まほろばクラブ南国の取組について

- ・バドミントン部への地域の専門指導者派遣は10回の内、5回が終了。1回で約20~25人。指導者は、南国市のシニアバドミントン連盟の会長と副会長だが、昨年の経験を生かして実情を考慮した内容の濃いプログラムを作成し、学校の先生方と共有しながら熱心に取り組んでいる。保護者が指導者のサポートをしてくれている。今年度は中学生のバドミンントンの部活動も始まっている。
- ・多種目のスポーツ体験イベントは、時間差で3グループが体験することで1人当たりの体験時間の確保に努めた。事前準備や対応など学校の先生方にはかなりお世話になった。
- ・昨年の体験を覚えている生徒もおり安心感があるため、トランポリンに何度も挑戦しようとする姿や、スラックラインで今年はどこまでいけるか試そうとする積極的な姿がみられた。
- ・まほろばクラブ南国の拠点施設である南国市スポーツセンターでのバドミントン教室に中学部の生徒が数名、保護者とともに参加している。障害のある方の自主的で継続的な活動の場を設けることができうれしく思っている。本事業と同じ方がボランティアとして指導してくれているので、クラブとしては場所の確保だけで教室を開催できており、大変ありがたい。
- ・バドミントン部の保護者が練習にもボランティアで参加してくれている。今は保護者だが、まほろばクラブのメンバーとして継続的につながり指導の中核になってもらえれば、地域のボランティアメンバーの一人という形で非常に貴重な存在になるのではないかと期待している。併せて人手不足の際に総合型スポーツクラブの会員がボランティアに関わる等の工夫をしたい。
- ・障害のあるないにかかわらず一緒に活動できる環境作りが大切だと思う。学校でも、小学生までは支援学級で一緒でも中学校で支援学校に行くと離れる。距離ができる。障害者への理解という意味でも、理想は障害のある人が地域の体育館で活動するバドミントンに一人二人と入って一緒にやっている状態。子どもの段階で一緒に何かをしたり、一緒にしているのを見る、さらに、一生懸命や

ってる姿をリスペクトできる環境が日常にあることではないか。

○総合クラブとさの取組について

- ・同窓会を活用したスポーツ体験教室は好評だった。フラダンス指導は専門指導者とクラブ会員が行った。アクアビクスをクラブ職員が担当し、職員のスキルUPになった。
- ・フライングディスク教室は昨年の教室の後、参加した生徒が全国優勝したこともあり、専門の指導者に教えてもらえるチャンスとして定着しつつある。社協からも4人参加があった。この教室をきっかけとして別事業で土佐市で教室を行いたいという話も出ている。
- ・ダンス教室は、はじめ窓の外から見てた子が後に参加するなど、音楽に合わせて楽しく踊れたと好評であった。
- ・多種目のスポーツ体験イベント予定している。昨年、保護者から「活動を見たかった」という声があったので、今年は保護者にもどのような活動をしているのか見てもらえるよう広報している。
- ・たくさんの方が参加できる工夫はしているが、送迎がネックになっている。
- ・生徒は総合型クラブの方が来てくれることを楽しみにしている。
- ・卒業生は同窓会でのスポーツ体験を心待ちにしている。アクアビクスやフラダンスがあるか事前の問い合わせもあった。同窓会は毎年8月の第3日曜日と決まっていて、その日だけほとみんなが1年前から予定をあけて楽しみにしている。今年は昨年よりも親子で参加する姿が多かった。
- ・スポーツ推進委員の関わり少ない。スポーツ推進委員は障害者スポーツについて研修をしているが、実際に障害者との交流がなかなかできていない。実際に障害者の方と交流をしていきたい。
- ・同窓会でのスポーツ体験が2回目だったので、保護者も先生も安心して楽しみにしていた。今年度のPTA親子行事も担当の保護者から「クラブとさ」に依頼があって実現した。スポーツをする機会は求めているが、障害特性などもあり自分から進んで初めてのところに行くことが難しかったり、保護者も親子で過去に何かに参加してつらい思いをした経験があって新たに参加する気持ちになりにくい家庭も多い。会場が学校というのは安心感があるのではないか。
- ・学校は一人の生徒に対して手厚い状態で先生がついているが、同じように総合型クラブでとなるとスタッフの人数が確保できない。そのような体制はクラブの中では作れていない。

■オブザーバーより

- ・現在、2020年に向けて障害者スポーツに注目が集まっている。成人の週1回のスポーツ実施率が約42.5%。それに対して障害のある方の実施率は19.2%。第2期スポーツ基本計画では40%まで上げていこうという流れ。1960年のローマでの第1回パラリンピックからスタートし、少しずつ広がり、やっと現在、パラリンピックは認知されてきている状況。地域で障害者のスポーツ活動が活発に行われているかというところについてスポーツ庁も力を入れようとしている。この事業は、各県にて特徴のある取組をそれぞれに行っていただき、その事例を全国へ広げていきたいということ。今年は全国で14か所で取組が進んでいる。
- ・その中でも高知県の取組は、これからスポーツ庁、あるいは日本で取組むべき課題をきっちりとらえられており、各事業とも障害者関係団体、特別支援学校、総合型クラブがうまく連動して目指すべき事業が展開されている。同窓会をキーワードにしながら、継続して戻ってこれる場所として学校があったり、非常にすばらしい。イベントや体験会は日常化ではないので、日常化が今後の高知県全体の取り組みのキーワードになるのではないか。
- ・スポーツ庁のスポーツ基本計画第2期では参画人口の増加を挙げている。参加から参画へ。課題解決に向けて自分も主催者の側になって動ける人を増やすのが狙い。もう一つは地域課題を解決できる力のある総合型スポーツクラブを日体協を中心として認証していく。その認証のベースは、自分

たちが楽しむだけではなくて、地域のために尽くしていこうという考えと行動力をもったクラブを認証するという動き。本事業での取組はスポーツを通して活き活きと元気な暮らしができるか、スポーツ基本計画のど真ん中を取り組んでいただいていると感じる。

○高知県障害者スポーツ指導者協議会の取組について

- ・大会を目指して、そこに教室を組み立てていく形で入り口を作られていることは大変重要なこと。
- ・送迎など移動の話が課題としてあると伺っている。地域密着型の独立リーグ、高知ファイティングドッグスなどうまく結び付いて選手の派遣やバス利用に繋げる関係作りは重要。
- ・検討委員会の委員が人を呼び込んでくれる状況があるのであれば、特別支援学校の先生にも入ってもらってはどうか。本事業で日高養護学校は、障害者スポーツセンターや総合型地域スポーツクラブから情報を得られる要になったはず。このような連携の取れる学校が増えれば、いろいろなことが大きく変わってくる。

○まほろばクラブ南国、総合クラブとさの取組について

- ・他の特別支援学校でも取り組める、一般化できるモデルではないか。この取組を経験したスタッフは、地域の障害者スポーツ普及の浸透に大きく貢献してくれる。継続することで様々な成果が大きく広がる取組である。
- ・特別支援学校の外、地域の中で「総合型SCへ行きたい」「一緒にやろう」この動きができていることが、きわめて重要で大きな成果。そういう動きがあれば、どんどん広がっていく可能性がある。ある。

第3回普及促進実行委員会より

■事業報告

○高知県障害者スポーツ指導者協議会の取組について

- ・幡多地域での陸上大会に向けた陸上教室を開催した。4会場で計画したが、宿毛市会場、黒潮町会場の2会場での実施となった。参加者からは「大会に向けた練習の場はとてもよい」との声が多数あった。

○まほろばクラブ南国の取組について

- ・バドミントン指導者派遣を10回、レクリエーション指導者派遣を2回、交流バドミントン大会、多種目スポーツ体験を行った。
- ・バドミントン部への指導者派遣は、高等部の部員に加えて中等部の部員も入り、活気のある活動になった。
- ・多種目のスポーツ体験イベントは、継続してきたことで待ち望む児童生徒が増えていた。小学部は障害の程度によってできることに差があり、大玉転がし、ケンケンパ、サッカーシュートなど複数の種目を体験できるサーキット形式にしたことがよかった。
- ・交流バドミントン大会は、バドミントン部員が選手としての練習以外に、事前に線審の仕方を学び練習をして大会に臨んだ。当日はその成果が発揮され、生徒が線審をし運営に関わることができた。また、保護者の自主的な協力が得られ、お手伝いや大会後に大会の来年の開催についての問い合わせも増えた。継続的な大会運営のための企業協賛の話をしてくれる方がいた。

会場については、検討の結果、県立山田高等学校とした。山田養護学校に近く、さらにJR駅からも近い立地条件がよく、参加者からは「参加しやすい」との声が多かった。しかし、体育館フロアは2階で、1階にはスロープがあるが1階から2階に関してはなく、車いすの方が2階に行く手段が全くなかった。トイレが1階にしかないため、その都度大人数で抱えて移動した。その方は気を遣っていたが、周囲は協力的でさらに交流が深まった。さらにその後の休憩時間にその方が

家族に支えられながら自力で立って階段をがら降りることに挑戦する姿も見られた。

- ・交通手段の確保は全ての取組において課題となっている。

○総合クラブとさの取組について

- ・生徒や家族が参加できる多種目スポーツ体験イベント、同窓会、スポーツ体験教室を行った。
- ・多種目のスポーツ体験イベントは今年は新たに笑いヨガなど違う種目に挑戦した。
- ・同窓会は楽しみにしてくれており、たくさんの参加があった。取組が定着するにつれて情報が口コミで広がっていくように感じる。
- ・スポーツ体験教室は、登校日は保護者がつれてくるのが大変というがあり、参加人数が少なかった。
- ・PTA親子行事はPTAからの要望で実現した。
- ・フライングディスク教室は社協にも声をかけたことで、地域の方の参加があった。地域の方から教室後の愛媛国体で銀賞を獲得したとの報告をもらえた。
- ・ダンス教室は、指導者が激しくパワフルな音楽や踊りを提供し、生徒達はその動きについていこうとがんばり、とても楽しんでた。この様子を見て、できないことができるようになることに喜びがあり、これまでできそうなことばかりを提供しがちであったことに気づくことができた。

■意見交換

- ・特別支援学校で実施してきた取組を学校ではなく総合型クラブの体育館で実施できないか。障害特性から新しい場所や新しいことに挑戦することが難しい生徒がいる。そんな生徒が実際に学校以外の体育館がどんな所にあり、どんな場所なのか実際に体験できることは大きいことではないか。移動手段の問題はあるが模索したいと考えている。
- ・バドミントン大会の後に部員から「就職が決まった。もうスポーツをすることはできない。」と報告があった。確かに就職すると肉体労働で体が疲れたり、スポーツを自由にできる時間が少なくなったりするだろうが、本人は全くスポーツはできなくなると思い込んでおり、他の生徒も同じように考えている様子だった。コーディネートに誰が入るのかというのがあるが、全くできないわけではないことをどう伝えて、どう地域のスポーツに繋ぐか考えるべき。
- ・別の会議で脳血管障害の方の話を開くチャンスがあった。パラリンピックに対する盛り上がりの中で、「自分たちには関係のないこと」と感じているとのこと。「できなくなった自分を見られたくない」という思いが強いため、「すぐにスポーツを」とはならない。まずは保健師やケアマネージャなどの支援があり、その中でスポーツへと促してもらい、繋いでもらおうという連携ができればいい。ケアマネさんの団体には障害がある方のケアプランを作っていく方々がいて、その方々にスポーツができるという情報を出していくとスポーツに関心のある人は来てくれるのではないか。
- ・障害があり家に閉じこもっている人に対して同じ経験を持つ人がキュアカウンセリングを行い社会参加を促す取組もある。その情報の中にスポーツの情報も提供できればよい。そんな方の運動やスポーツ活動の受け皿になれる場も必要ではないか。
- ・以前、移動手段について、市町村行政や企業などが保有している車両の有効利用を訴え、利用条件を調査することの必要性が話題になったが、この実行委員会でそのような調査ができないか。実は今年の幡多地区障害者陸上大会の際に、独立リーグのファイティングドッグスが選手の大会への派遣やバスの利用等について協力してくれた。特にバス利用については自社のバス以外にもいろいろと探ってくれ大変ありがたかった。どこがバスを所有しているか、その使用条件や問い合わせ先などを一覧にできないか。その一覧を関係者に広めることで、障害がある人が動きたいという時に使えるのではないかと思う。

IV 実践研究

関係者が連携した取り組みのモデルづくり			
実施団体		高知県障がい者スポーツ指導者協議会	
取組の名称	県西部の障害者陸上競技大会に向けた障害者陸上教室の開催		
目的	高知県西部地域での障害者スポーツの普及振興を目的とする。 教室開催にあたっては西部地域の関係者と情報交換を行い、適当な時期や場所を調整していくことで、教室開催後につながるような展開を見据えていく。		
取組写真			
連携機関等	幡多地区陸上競技協会、高知県社会福祉協議会、高知県知的障害者福祉協会、高知県知的障害者育成会、宿毛市スポーツ推進委員会		
取組内容	障害の程度に関わりなく、誰でも比較的参加しやすく、日常生活での健康づくりにもつながりやすい事から陸上競技の教室を開催する。また、指導者は、幡多地区の陸上競技関係者に依頼し行った。		
種目・指導者等			
実施期日	対象者	参加人数	計
平成29年9月23日（土）14：00～16：00	黒潮町周辺在住の障害者	10人	20人
平成29年9月24日（日）9：30～11：30	宿毛市周辺在住の障害者	10人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> 参加しやすい運営の工夫 より多くの方に参加してもらうための情報発信の工夫 支える人材（スタッフ）の確保 継続した取組になるための工夫（指導者の育成など） 	分かりやすいチラシ及びポスターの作成 幡多地区の障害者スポーツ指導員、スポーツ推進委員等に講師を依頼 教室の継続と併せ、別途行われる大会の継続も視野に入れ、教室と大会と連携した運営の確保		
成果(○)と課題(●)	○温かい雰囲気や注意を引くチラシを作成したので、障害のある方々にも興味を持ってもらえた。 ○交通手段の脆弱な地域での実施であり、送迎を導入することで参加者増につながった。 ○教室参加者が大会に向けてモチベーションを上げることができた。また、実施過程で参加者と同時に幡多地区での支援者につながることもできた。 ●大月町の広報や呼びかけを期待したキーマンの職場の所属長へ依頼をしなかったため、期待通りの動きをしてもらえなかった。 ●土佐清水市は障害のある人で組織化された団体がなく、行政との連携のみでは、対象とした障害者まで情報が届かなかった。		
取組の評価	評価指標の数には届かなかったが、取組により地域特性や課題の把握ができた。課題解決への具体的な取組とともに既存大会運営との効果的な連携が教室参加者増や継続的な活動としての定着へ繋がると思われる。		

学校を拠点とした取組みのモデルづくり（運動部活動を通じた活性化モデル）					
実施団体		特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国			
取組の名称	バドミントンクラブへの指導者の派遣				
目的	特別支援学校の運動部活動（バドミントン部）に総合型クラブや競技団体の指導者を派遣することで、運動部活動の充実と部活動を通じたスポーツ参加機会の拡充を図る。				
取組写真					
取組み内容	地域のバドミントン指導者の派遣				
会場	高知県立山田養護学校				
連携機関等	高知県立山田養護学校 南国市シニアバドミントン連盟				
対象者	高知県立山田養護学校 バドミントン部				
指導者	所属・役職 氏名	南国市シニアバドミントン連盟	会長	藤松孝雄	
		南国市シニアバドミントン連盟	副会長	横山 敦	
実施日 参加数 内容	①	9月7日	基礎運動・基礎練習（ショートサーブ・ロングサーブ・ヘアピン）	22人	157人
	②	9月14日	基礎運動・基礎練習（バックハンド・フォアハンド・ハイクリア）	22人	
	③	9月21日	基礎運動・基礎練習（ロングサーブ・ロビング・ショートサーブ・ヘアピン）	19人	
	④	10月5日	基礎運動・基礎練習（ロングサーブ・ショートサーブ・ゲーム）	17人	
	⑤	10月12日	基礎運動・基礎練習（前後に打つ練習・ダブルスゲームの動きの練習）	12人	
	⑥	10月19日	基礎運動・基礎練習（ダブルスゲームに関する注意点と対処の方法）	6人	
	⑦	10月26日	基礎運動・基礎練習（点数も数え方・審判の仕方・ゲームの進め方）	6人	
	⑧	11月2日	基礎運動・基礎練習（点数も数え方・審判の仕方・ゲームの進め方）	16人	
	⑨	11月9日	基礎運動・基礎練習（スマッシュ・ハイクリアー・前後のクック・ダブルスゲーム）	15人	
	⑩	11月30日	基礎運動・基礎練習（大会に向けてのダブルスゲーム実践）	22人	
◆モデルづくりの視点		◆対策			
・教員（顧問）と外部指導者の連携による運動部活動の質的向上		・競技レベルに応じたグループ分けの指導 ・通常行っているウォーミングアップなどの活動はそのまま実施 *通常行っているウォーミングアップ（ランニング・ストレッチ・腹筋・背筋）			
成果(○)と課題(●)		○生徒間での自主的なコミュニケーションが強化された。 ○専門指導者の派遣によりレベルに応じた練習環境をつくることができた。 ○ラリーが続くようになりゲームが楽しめる部員が増えた。 ●競技レベルによっては、指導時間が不足がちになってきている。 ●部活動の時間帯に活動できる指導者の確保。			
取組の評価		指導者派遣後の部員へのアンケート調査では肯定的な意見が85%であり、評価指数の95%には届かなかったが、顧問や保護者のヒアリングでは肯定的な意見が大半を占めており、取組の効果が大きいことがうかがえる。この取組を通じて総合型地域スポーツクラブに通う生徒が出てきたことは大きな成果である。今後、部員と地域指導者の人間関係がより深くなることでさらなる効果が期待される。			

学校を拠点とした取組みのモデルづくり（運動部活動を通じた活性化モデル）				
実施団体		特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		
取組の名称	バドミントンクラブへの指導者の派遣			
目的	特別支援学校の運動部活動（バドミントン部・陸上部）にレクリエーション協会の指導者を派遣することで、運動部活動の充実と部活動を通じたスポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
取組み内容	レクリエーション指導者の派遣			
会場	高知県立山田養護学校			
連携団体	高知県立山田養護学校 高知県レクリエーション協会			
対象者	高知県立山田養護学校 バドミントン部 陸上部			
指導者	高知県レクリエーション協会		副会長	横川遊亀壽
実施日 参加数 内容	①	11月6日	大きな声が出る パートナーとコミュニケーションを図りゲームを楽しむ	22人
	②	12月11日	曲に合わせてリズムで体を動かす チームを組み多くの仲間とゲームを楽しむ	30人
◆モデルづくりの視点		◆対策		
・教員（顧問）と外部指導者の連携による運動部活動の質的向上		チームで関わり合う事でスキンシップが図れるプログラム 参加生徒全員が参加できる内容の専門指導の実施		
成果(○)と課題(●)		○レクリエーションプログラムにより、楽しく笑顔で体を動かすことができた。 ○個人競技では体験することの少ない、スキンシップを促すプログラムにより部員同士のコミュニケーションが活発になった。 ●特性や運動レベルに合わせたレクリエーションプログラムの検討が必要。		
取組の評価		指導者派遣後の部員へのアンケート調査では肯定的な意見が85%であり、評価指数の95%には届かなかったが、顧問や保護者のヒアリングでは肯定的な意見が大半を占めており、取組の効果が大きいことがうかがえる。この取組を通じて総合型地域スポーツクラブに通う生徒が出てきたことは大きな成果である。今後、部員と地域指導者の人間関係がより深くなることでさらなる効果が期待される。		

学校を拠点とした取組みのモデルづくり（運動部活動を通じた活性化モデル）					
実施団体		特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国			
取組の名称	多種目のスポーツ体験イベント（スポーツフェスティバルin山田）				
目的	特別支援学校の児童生徒に総合型クラブ競技団体の指導を派遣することで、スポーツを体験する機会を提供するとともに、スポーツ参加機会の拡充を図る。				
取組写真					
取組み内容	多種目のスポーツ体験イベント（スポーツフェスティバルin山田）				
	エアロビクス	まほろばクラブ南国	指導者	吉本直美	
	トランポリン	障害者スポーツセンター	職員	笹岡 真	
	ミニトランポリン	まほろばクラブ南国	指導者	吉本直美	
	スラックライン	まほろばクラブ南国	理事長	武市光徳	
	卓球	まほろばクラブ南国	指導者	田中敬大	
	卓球バレー	障害者スポーツセンター	職員	鳴瀧寛子	
	キンボール	高知県文化生活スポーツ部	スポーツ課職員		
	風船バドミントン	高知県文化生活スポーツ部	スポーツ課職員		
	大玉転がしサーキット	まほろばクラブ南国	指導者	山脇寛史	
	ボウリング	まほろばクラブ南国	理事長	武市光徳	
スカットボール	まほろばクラブ南国	理事長	武市光徳		
会場	高知県立山田養護学校				
連携団体	障害者スポーツセンター				
対象者	高知県立山田養護学校				参加者数
実施日・参加数 内容	①	10月10日	高知県立山田養護学校高等部	86人	176人
	②	11月20日	高知県立山田養護学校中学部	54人	
	②	11月20日	高知県立山田養護学校小学部	36人	
◆モデルづくりの視点		◆対策			
<ul style="list-style-type: none"> 継続的な活動につながる運動プログラムづくり 障害者スポーツ指導者の育成 		<ul style="list-style-type: none"> クラブ指導者を障害者のスポーツ指導へつなげる 個に応じたプログラムの提供 			
成果(○)と課題(●)		<p>○中学部・高等部は風船バレー・キンボールが人気で、多くの生徒がゲームを体験することができた。</p> <p>○小学部は多種目でのサーキットトレーニングが人気で積極的に何度も挑戦する姿が見られた。</p> <p>○学校の先生方がニュースポーツに触れ、体を動かす児童生徒の姿を客観的に見ることのできる機会となった。</p> <p>●定期的に実施できる取組みへの工夫が必要。</p> <p>●事前準備（総合型地域スポーツクラブスタッフと先生方の打合せ）の必要性の検討</p>			
取組の評価		イベント実施後の児童生徒へのアンケートでは肯定的な意見が小学部93%、中学部83%、高等部51%であり、評価指標の数値に少し届かなかった。また年齢が上がるにつれて下がっており、特に高等部について取組のステップアップが求められる。			

学校を拠点とした取組みのモデルづくり（運動部活動を通した活性化モデル）				
実施団体		特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		
取組の名称	交流バドミントン大会			
目的	特別支援学校の運動部活動（バドミントン部）と地域のスポーツサークル会員などが交流できる大会を開催することで運動部活動の充実と部活動を通したスポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
取組み内容	交流バドミントン大会			
会場	高知県立山田高等学校			
実施日	12月16日（土）			
連携団体	高知県バドミントン協会 南国市シニアバドミントン連盟 審判ボランティア24名 高知県レクリエーション協会 高知県立山田養護学校 高知県立日高養護学校			
対象者参加数	健常者	14人	48人	
	障害者	34人		
チーム分け	① 障害者同士のペア	山田養護学校60% 日高養護学校33% その他17%	10組	24組
	② 障害者と健常者のペア	山田養護学校40% 日高養護学校67% その他83%	14組	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
健常者と障害者が一緒に参加できる大会づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の県立高校体育館を会場とした ・クラブのバドミントンサークル関係者を中心に大会運営スタッフを依頼 		
成果(○)と課題(●)		<p>○ボランティアの方と学校の先生方の協力により大会運営がスムーズにできた。</p> <p>○生徒が選手としてだけでなく、線審など大会運営にも関わる体験ができた。</p> <p>○大会を継続してきたことにより部員がゲームの合間に積極的に運営役員に指導を求めるなど大会を通した交流が活発になった。</p> <p>○会場がJRの駅に近かったため、参加しやすかったという声が多かった。応援目的で会場へ来た生徒もいた。</p> <p>●障害者と健常者のペアで、健常者の競技レベルで試合が左右される場面があった。</p> <p>●会場が2階で、エレベーターやスロープがなかったため車椅子の選手がトイレ等へ自力で移動できなかった。</p> <p>●競技役員の打合せ手順等の準備が足りていなかった。</p>		
取組の評価		<p>参加者は48人であり、評価指標の数値にわずかに届かなかった。しかし、運営役員（バドミントン専門家）に試合の合間の時間で部員（生徒）が積極的に声を掛けて教えてもらう姿や審判業務を教えてもらい大会運営に関わるなど大会による部員の活発な活動や関係者との深い人間関係構築に大きな成果がみられた。大会の継続によりさらなる効果が期待される。</p>		

学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）		
実施団体		NPO法人総合クラブとさ
取組の名称	休日を活用したスポーツ体験教室	
目的	親子活動を通じて、夏休みの一日を楽しく過ごす	
取組写真		
会場	高知県立日高養護学校	
連携機関等	高知県立日高養護学校	
取組内容	PTA行事での体験教室	
	アクアビクス	総合クラブとさ指導者：市川実
種目・指導者等	水泳	高知県文化生活スポーツ部スポーツ課職員
		総合クラブとさスタッフ：田井直子・中村千智
実施期日	対象者	参加人数
平成29年7月30日（日）10:00～11:30	生徒・保護者	35人
◆モデルづくりの視点		◆対策
<p>* 卒業生や地域住民が参加しやすい運営の工夫</p> <p>* 卒業生や地域住民が参加しやすいプログラム内容</p> <p>* 総合型クラブや社会福祉協議会が実施している既存のスポーツ活動への参加につながる工夫</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況や学校行事を考慮したプログラムの検討（休日よりも参加者増が見込める放課後活動で実施） ・地域内の小・中学校や社会福祉協議会にチラシを配布
成果(○)と課題(●)	<p>○参加者は、専門の指導者の指導のもと、浮具等を使用して安全に体を動かすことができた。また、学校の授業では体験できないアクアビクスが人気であった。</p> <p>○深いプールに入ったことのなかった児童が浮力のあるマットに乗り、抵抗なく深いプールに入れた。保護者が子どもの挑戦に大変喜んでいた。</p> <p>●保護者もプールに入る予定だったが、情報伝達不足のため準備がなく、プールサイドで見学するに留まった。</p>	
取組の評価	<p>参加者は評価指標の数を大きく上回った。PTA行事として保護者から要望された取組であり、これまでの取組による人間関係の構築や総合型地域スポーツクラブへの信頼が成果に繋がっている。</p>	

学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）			
実施団体		NPO法人総合クラブとさ	
取組の名称	休日を活用したスポーツ体験教室		
目的	登校日に学校に来た生徒に体を動かしてもらい、スポーツの楽しさに触れてもらう		
取組写真			
会場	高知県立日高養護学校		
連携機関等	高知県立日高養護学校 ・ 高知県障害者スポーツセンター		
取組内容	登校日を活用した体験教室		
	アクアビクス	総合クラブとさ指導者：中山真紀（中）	
種目・指導者等	3B体操	総合クラブとさ指導者：福原由紀（小）	
	水泳	障害者スポーツセンター職員：笹岡真（小・中） 総合クラブとさスタッフ：田井直子・中村千智（小・中）	
実施期日	対象者	参加人数	計
平成29年7月31日（月）9:30～10:40	中学部	21人	46人
平成29年8月2日（水）10:30～11:30	小学部	25人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<p>* 卒業生や地域住民が参加しやすい運営の工夫</p> <p>* 卒業生や地域住民が参加しやすいプログラム内容</p> <p>* 総合型クラブや社会福祉協議会が実施している既存のスポーツ活動への参加につながる工夫</p>	<p>・ 生徒の登校日を活用し、保護者への参加、見学を呼びかける（保護者とクラブ指導員・スタッフとのコミュニケーションの場を作る）</p>		
成果(○)と課題(●)	<p>○運動機会が減少する児童生徒が多いといわれている夏休み中に、運動の機会を提供できた。</p> <p>○参加者は学校の授業では体験できないプログラム（アクアビクス・3B体操）を楽しく体験できた。</p> <p>●夏休みの登校日には通常授業日のような送迎がないため、移動手段の確保ができず参加できない人がいた。</p> <p>●保護者の見学がなかった。保護者の方が見学や参加を促せる取組や呼びかけの工夫が必要。</p>		
取組の評価	参加者は評価指標を上回った。しかし、移動手段がないため参加できなかったという声もあり、中学部・小学部ともに移動手段を確保できれば参加者の大幅な増加が見込まれる。		

学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）		
実施団体	NPO法人総合クラブとさ	
取組の名称	同窓会を活用したスポーツ体験教室	
目的	同窓生が気軽にスポーツを体験でき、今後のスポーツ活動への参加に繋げる	
取組写真		
会場	高知県立日高養護学校	
連携機関等	高知県立日高養護学校	
取組内容	フラダンス	総合クラブとさ指導者・スタッフ：井上尚子・池田美代・山本富美・中島文子・田井直子
	水泳	障害者スポーツセンター職員：笹岡真
	アクアビクス	総合クラブとさ職員：中村千智・田井直子
	ビームライフル	総合クラブとさ職員：矢野和也
	ミニトランポリン	総合クラブとさ職員：大野真紀 総合クラブとさスタッフ：田井友里絵
	ミニテニス	総合クラブとさ理事：青木周作・市原徹也 総合クラブとさスタッフ：市原晴奈
	シャッフルボード	高知レクリエーション協会：前島笑子 総合クラブとさ理事：井上浩明
実施期日	対象者	参加人数
平成29年8月20日（日）11:00～14:30	同窓生	120人
◆モデルづくりの視点		◆対策
<ul style="list-style-type: none"> * 卒業生や地域住民が参加しやすい運営の工夫 * 卒業生や地域住民が参加しやすいプログラム内容 * 総合型クラブや社会福祉協議会が実施している既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の状況を考慮したスポーツ体験プログラムの検討（クラブにある種目を体験） ・ 日常的なクラブでの活動（スポーツ教室やサークル）のPR
成果(○)と課題(●)	<p>○取組を継続してきたことで卒業生が複数のスポーツを体験できる場として定着してきた。</p> <p>○効果的な事前案内やチラシ配布ができたため、参加者の水着や体育館シューズの準備不足が減少した。</p> <p>●暑い時期のため、プールでの活動は参加者が多いが、体育館の種目の参加者が少なかった。</p>	
取組の評価	参加者は評価指数を上回った。広報の工夫と取組の継続による効果が大きい。楽しみにしている卒業生が増えており、継続によるさらなる効果が期待できる。	

学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	休日を活用したスポーツ体験教室		
目的	学校、総合型クラブ、社会福祉協議会が連携して、生徒や保護者、卒業生、地域住民など、誰もが気軽に参加できる多種目のスポーツ活動を実施する。		
取組写真			
会場	高知県立日高養護学校		
連携機関等	高知県立日高養護学校 高知県フライングディスク協会 土佐市社会福祉協議会		
取組内容	フライングディスク教室		
種目・指導者等	フライングディスク・スカイクロス：高知県フライングディスク協会 中町尚一 総合クラブとさ職員：田井直子		
実施期日	対象者	参加人数	計
平成29年9月30日（土）9:00～11:00	障害のある方及びその家族	16人	40人
平成29年10月4日（水）15:30～16:40	障害のある方及びその家族	24人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> * 卒業生や地域住民が参加しやすい運営の工夫 * 卒業生や地域住民が参加しやすいプログラム内容 * 総合型クラブや社会福祉協議会が実施している既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の状況や学校行事を考慮したプログラムの検討（休日よりも参加者増が見込める放課後活動で実施） ・ 地域内の小・中学校や社会福祉協議会にチラシを配布 		
成果(○)と課題(●)	<p>○専門指導者の指導を受けたことで競技力が向上した。</p> <p>○取組を継続してきたことで専門指導者からの指導の場として認知され、地域住民や地域の福祉施設からの参加があり、交流に繋がった。</p> <p>●土曜日は通常授業日のような送迎がないため参加者が少なかった。</p>		
取組の評価	参加者数は1回目は評価指標の数に届かず、2回目は上回った。曜日による参加者の参加数の増減の実態が把握できた。継続されることで取組が認知され、地域の方の参加を呼び込む成果に繋がっている。		

学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）			
実施団体		NPO法人総合クラブとさ	
取組の名称	休日を活用したスポーツ体験教室		
目的	学校、総合型クラブ、社会福祉協議会が連携して、生徒や保護者、卒業生、地域住民など、誰もが気軽に参加できる多種目のスポーツ活動を実施する。		
取組写真			
会場	高知県立日高養護学校		
連携機関等	高知県立日高養護学校		
取組内容	ダンス教室		
種目・指導者等	ダンス：中田里佳（リトルプレイヤーズシアター指導者） 総合クラブとさ職員：田井直子（10/5）・中村千智（10/12）		
実施期日	対象者	参加人数	計
平成29年10月5日（木）15:30～16:40	障害のある方及びその家族	12人	28人
平成29年10月12日（木）15:30～16:40	障害のある方及びその家族	16人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> * 卒業生や地域住民が参加しやすい運営の工夫 * 卒業生や地域住民が参加しやすいプログラム内容 * 総合型クラブや社会福祉協議会が実施している既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況や学校行事を考慮したプログラムの検討（休日よりも参加者増が見込める放課後活動で実施） ・地域内の小・中学校や社会福祉協議会にチラシを配布 		
成果(○)と課題(●)	<p>○楽しく体を動かすことができた。積極的に活動し舞台上がって踊る姿も見られた。</p> <p>○学校の先生方の協力を得られたことで安全な環境で実施できた。</p> <p>●事前のチラシ配布を行ったが、初めて取組む種目であったため、情報があまり広がらなかった。学校以外の地域の施設等にもチラシ配布をすべきだった。</p>		
取組の評価	参加者は評価指標に届かなかった。今年からの取組（種目）のためまだ認知が低かった。参加者からの次回を期待する声があがっており、継続することで参加者増が期待できる。		

学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）			
実施団体		NPO法人総合クラブとさ	
取組の名称	生徒や家族が参加できる多種目のスポーツ体験イベント		
目的	児童生徒に複数の種目を体験してもらい、自分に合った運動を見つけてもらう		
取組写真			
会場	高知県立日高養護学校		
連携機関等	高知県立日高養護学校		
取組内容	スポーツフェスティバル in 日高		
	準備体操（3B体操）	総合クラブとさ指導者：福原由紀（小・中・高）	
	トランポリン	総合クラブとさ指導者：金一国（小・中・高）	
	ミニトランポリン	高知県文化生活スポーツ部スポーツ課職員（小・中・高）	
	シャッフルボード	高知レクリエーション協会：前島笑子（小・中）・総合クラブとさ職員：中村 千智（高）	
	ビームライフル	総合クラブとさ職員：矢野和也（高）	
	ボール体操	障害者スポーツセンター職員：鳴瀧寛子（小）	
	フラダンス	総合クラブとさ指導者・スタッフ：井上尚子・池田美代・山本富美・田井直子（小・中・高）	
	笑いヨガ	木村 徹（高）	
	スカイクロス	総合クラブとさ職員：青木周作（高）・中村千智（中）・井上浩明（小・中）	
種目・指導者等	カポエイラ 総合クラブとさ指導者：徳永洋平（中）・斎藤圭晃（中）		
実施期日	対象者	参加人数	計
平成29年10月27日（金） 9:10～10:30	小学部	37人	155人
平成29年10月27日（金） 10:40～12:10	中学部	48人	
平成29年11月29日（水） 9:00～12:00	高等部	70人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
*総合型クラブや社会福祉協議会が実施している既存のスポーツ活動への参加につながる工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況や学校行事を考慮したプログラムの検討 ・保護者へ参観の呼びかけ、個に応じたプログラムの提供（トランポリンなど） 		
成果(○)と課題(●)	<p>○カポエイラが好評だった。イヤーカーバーをしている生徒が外して一緒に声を出しながら楽しむ姿があった。</p> <p>○運動が制限されている児童生徒も座位や仰向けでトランポリンを楽しめた。</p> <p>○学校の体育の授業では体験できない種目を体験することで、自分にあったスポーツが発見できたという声があった。</p> <p>○卒業生の参加希望があり、参加が実現した。</p> <p>●学校の先生方の支援が必要不可欠である。</p>		
取組の評価	<p>イベント実施後の児童生徒へのアンケートでは肯定的な意見が小学部27%、中学部68%、高等部73%であり、評価指標には届かなかった。今年、新たな種目に取り組んだことにより、種目による肯定意見の差が明確になり、実態を把握することに繋がっている。取組のさらなるステップアップが求められる。</p>		

学校を拠点とした取組のモデルづくり（卒業生や地域住民が参加するモデル）			
実施団体	NPO法人総合クラブとさ		
取組の名称	生徒や家族が参加できる多種目のスポーツ体験イベント		
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツを体験してもらう		
取組写真			
会場	障害者支援施設 くすのき園		
連携機関等	くすのき園		
取組内容	障害者施設での体験教室		
種目・指導者等	フラダンス：総合クラブとさ指導者・スタッフ：岡田節子・坂本真奈未・矢野妙子・宮本智沙（12/22） 笑いヨガ：木村徹（2/27）		
実施期日	対象者	参加人数	計
平成29年12月22日（金）10:30～10:45	くすのき園入所者	60人	115人
平成30年2月27日（火）10:00～11:00	くすのき園入所者	55人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
*総合型クラブや社会福祉協議会が実施している既存のスポーツ活動への参加につながる工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・入園者の状況を考慮したプログラムの検討 ・日常的なクラブでの活動（スポーツ教室やサークル）のPR 		
成果(○)と課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者は体が動く・動かないにかかわらず、自分にできることを探して一緒に動こうとしていた。 ○施設関係者から、「外部から人がきて体験させてもらえるのはありがたい。今後、定期的に続けられないか検討したい」との声があった。 ○入所者からも好評で「また来て欲しい」との要望もあった。 ○複数回に実施により、総合クラブとさの認知度向上に繋がった。 ●施設で過ごしている方は、日常的に体育館に運動しにくくすることは難しい。 		
取組の評価	参加者は評価指標を大きく上回った。取組により新たな地域施設との連携が生まれ、施設のニーズや入所者の現状把握に繋がった。入所者の状況に合わせ、より適した運動の提供が求められる。		

V 成果と課題

本事業では、陸上協議関係者と地域福祉関係者を中心とする連携により、高知県西部（幡多地区）の障害者陸上競技大会への参加を促す陸上競技教室を開催したり、総合型地域スポーツクラブと特別支援学校を中心とする連携により、触れる機会の少ない運動・スポーツ体験を年齢や障害の状況に合わせて提供することができた。

各取組が定着し好評を得るとともに、参加者からの要望も多く集まるようになり、それに応えることが各取組の質的充実に繋がる。ただ、最も多い要望や意見が移動手段に関わることで、「参加したい気持ちはあるが、移動手段がないため参加できない」との声も多くあげられている。地域での障害者スポーツの普及を進める際に、参加者の移動手段の確保は大きな課題である。

日本の地方である高知県のさらに地方、つまり地方の中の地方は公共交通機関が大変脆弱な状況にあり、時間に合わせて目的地まで移動しなくてはならないスポーツ活動への参加の際に、公共交通機関での移動は時間・費用・肉体的精神的疲労の面で大きな負担が生じるのが現状である。

多くの参加を募り交流が深まる場をつくり、初めての環境に慣れ、新たな人間関係が構築できる機会を提供するには主催者側が移動手段の提供を検討することが必要である。各市町村行政や企業の保有する車両について情報を収集し、また、車両の有効利用に対する理解促進を図り、実際の利用に繋げることも有効と考える。

各取組を継続して実施する中で、障害者に関わる団体の連携が活発になり、本事業以外の取組にも繋がっている。また、保護者や学校の先生方、施設職員の方など支援をしてくださる方からの参加の呼びかけや口コミも幅広いものになってきている。

さらに、地域の障害者や特別支援学校の児童生徒が、地域のスポーツ指導者や総合型クラブのスタッフと継続して触れ合うことで、参加者が安心して積極的に活動する環境ができはじめている。特に、昨年度から本年度にかけて実施した特別支援学校バドミントン部への地域の指導者派遣の取組がきっかけとなり、総合型地域スポーツクラブでの部員と保護者による自主的で定期的（学校の部活動のない曜日）な活動が始まっており、その保護者が将来、総合地域スポーツクラブの関係者として地域スポーツを担う存在になることも期待されるなど大きな成果に繋がっている。

障害者やその保護者は、スポーツの機会を求めているが、信頼関係のない状況では新たな挑戦に躊躇する傾向があることも浮き彫りになっている。そのような中で、すでに信頼関係のある学校の先生方や施設職員の方の支援を受けながら、じっくりと時間をかけて障害者とスポーツ関係者との信頼関係を構築できたことが成果のポイントであり、今後、構築された信頼関係を活かしたさらなる成果が期待される。

今後は、本事業によって構築された連携の基盤を、さらに他の地域へ広げる取組へと進めていきたい。

参 考

平成29年度高知県地域における障害者スポーツ普及促進事業 障害者スポーツ普及促進実行委員会設置要綱

(目的)

第1条 県内において障害者がスポーツに関心を寄せ、継続的にスポーツ活動に参加できる機会の拡充を図るための実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及することを目的に、「高知県地域における障害者スポーツ普及促進実行委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(内容)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 実践研究の進捗管理に関すること。
- (2) 実践研究の内容、成果等の検討・検証に関すること。
- (3) 実践研究の成果を踏まえた普及促進プログラムの作成に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成し、別表に掲げるもの（以下「委員」という。）をもって組織する。

2 委員は、高知県知事が次の各号に掲げる者のうちから、委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 実践団体関係者
- (3) 協力団体関係者
- (4) 県内スポーツ団体関係者

(任期)

第4条 委員の任期は、本事業が完了するまでの期間とする。ただし、委員に変更があった場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 委員会の委員長及び副委員長は、各1名とし、委員の互選とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、高知県文化生活スポーツ部スポーツ課長が招集する。

2 委員会の会議の議長は、委員長が務める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、高知県文化生活スポーツ部スポーツ課が行う。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関しての必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

(附則)

この要綱は、平成29年7月20日から施行する。

障害者スポーツ普及促進実行委員会委員名簿

役 職	氏 名	所 属
委員	常行 泰子	国立大学法人高知大学
	北村 大河	高知県障がい者スポーツ指導者協議会
	武市 光徳	NPO法人まほろばクラブ南国
	田井 直子	NPO法人総合クラブとさ
	池添 和博	高知県立山田養護学校
	正木 生子	高知県立日高養護学校
	島崎 伸一	高知県スポーツ推進委員連絡協議会
	小松むつ子	高知県レクリエーション協会